

目の周りが白いから「メジロ (目白)」です

野鳥には、渡りなど季節的な移動を行う鳥もいますが、一年中ほぼ同じ地域にいる鳥もいます。前者を「渡り鳥」といい、後者を「留鳥」といいます。東濃地域にも多くの留鳥が生息し、陶史の森でも何種類かの留鳥が確認できます。

右は陶史の森で撮影された留鳥の「メジロ」です。全長は約12cmで、スズメより小さな体です。雌雄の違いはほとんどありません。深みのある緑色の体色をしていて、羽は暗褐色です。目の周りが白く縁取られています。この目の部分が白いことが「メジロ (目白)」という名前の由来で、英名も「White-eye」といいます。

雑食性ですが、好物は花の蜜です。くちばしが細くとがっていて、中から筆先のような舌を出し、蜜を味わいます。陶史の森でも、冬はツバキ、早春はウメ、春になると桜などの花にくちばしを挿し、蜜をなめている姿を見かけます。

緑のメジロに色鮮やかな花というのは、見た目に美しく「はなすい」「はなつゆ」と呼ぶ地域もあるようです。

木の枝にくっつくように留まる習性があり、時には、10羽近くが並んでいたり、間に割り込もうとしたりする姿が見られます。これが「目白押し」という言葉の語源となっています。

一年中、陶史の森にいるメジロですが、木の葉が落ち、森の見通しがよくなるこれからの季節が、バードウォッチングのチャンスです。見るだけで何かほのぼのとする小鳥です。

※冬はメジロだけでなく他の種類の野鳥もよく観察できる季節です。冬のバードウォッチングはどうですか？



初秋のメジロ (9月)



サザンカの花とメジロ (2月)

森	の
日	記

2つの橋を改築しました

9月10日(金)

林泉の池の南側にある雲五川とトンボの湿地に掛かる2つの橋の改築が完了しました。長い間ご迷惑をお掛けしました。陶史の森内、織部の道の散策をお楽しみください。自然保護のために橋から湿地などに降りないようにしてください。



林泉の池の北の橋



トンボの湿地の橋

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。

教室のご案内

11月

- バードウォッチング (要申込 定員10人)
11月28日(日) 午前9時~11時 雨天中止
晩秋の野鳥を観察します。

12月

- バードウォッチング (要申込 定員10人)
12月26日(日) 午前9時~11時 雨天中止
初冬の野鳥を観察します。

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります